

# 五雲会

平成三十年十月二十日(土) 正午(土) 始

## 演目の解説

## 次回予告

12:00  
三輪 尚史

ワキ 館田 善博  
間 善竹大二郎  
大鼓 原岡 一之  
小鼓 森澤 勇司  
太鼓 梶谷 英樹  
笛 小野 寺竜一

後見

宝生 和英  
和久 莊太郎  
辰巳 大二郎  
藤井 秋雅  
今井 基雅  
金井 山内 崇生  
佐野 雅之  
弘野 玄宜

地謡

13:30  
鬼瓦

善竹 富太郎  
善竹 十郎

〱休憩十五分〱

14:00  
橋弁慶

トモ 木谷 哲也  
子方 野月 惺太  
シテ 金井 賢郎  
大鼓 亀井 洋佑  
小鼓 飯富 寺井 義明

後見

辰巳 満次郎  
亀井 雄二  
間 大藏 吉次郎  
宮本 昇  
大鼓 亀井 洋佑  
小鼓 飯富 寺井 義明

地謡

〱休憩十五分〱

14:55  
鉄輪

シテ 渡邊 茂人  
ワキ 福王 和幸  
間 大藏 教義  
大鼓 柿原 光博  
小鼓 森 成田 寛宗  
太鼓 徳田 宗久

後見

大坪 喜美雄  
澤田 宏司  
當山 淳司  
朝倉 大輔  
川崎 隆士  
田崎 金井 伸二  
金瀬 森 秀雄  
金井 克徳

地謡

終演予定 午後三時五十五分頃

### 龍「三輪」(みわ)

三輪山の麓に住む玄賢僧都の許に、櫛と鬘の女を持つて訪れる一人の女がいました。女は僧都に衣を一枚所望し、衣を手に戻つて行く後姿を僧都が呼び止め、住処を尋ねると三輪山の杉を便りに訪ねよと去つて行きます。参詣の者から、僧都の衣が三輪明神の杉の木に掛かっていることを聞かされ、僧都が三輪山へ行くと、確かに女に与えた衣が杉の枝に掛かっていました。するとその陰から明神が現れ、神婚説話を語り、神楽を舞い、天の岩戸神話を再現して見せます。

### 狂言「鬼瓦」(おにがわら)

永らく在京の田舎大名、訴訟も無事解決し、これも信仰する因幡堂薬師のおかげと、帰郷するに先立ち薬師堂に参詣します。ふと目にとまつたお堂の屋根の破風の上の鬼瓦のいかつい顔が、国許に残した妻に似ているのに気づき、懐かしさと恋しさのあまり、つい泣き出してしまい、家来の太郎冠者に慰められていそいで帰つてゆきます。鬼瓦と妻の顔がそっくりというのが狂言らしく古風でおおらかです。

### 能「橋弁慶」(はしべんけい)

武蔵坊弁慶は、北野神社へ丑の刻詣(ときもうで)に出ようと従者に共を命じますが、従者は神社への通り道の五条の橋に、最近十二、三ばかりの小男がいて、通行人に悪さをすると聞いたので止めた方がいいと言つて引き留めます。しかし弁慶は、それならばかえつて退治してくれようと薙刀(なぎなた)をかついで五条の橋へ出向き、その少年との打合いに臨みます。さすがの弁慶もこの小男が牛若丸とは知らず、散々に翻弄され、降参して家来なることを誓います。義経と弁慶、二人の運命的な出会いを描きます。

### 能「鉄輪」(かなわ)

鞍馬貴船神社の神主が、毎夜丑の時参りに来る女に神託を与えると、女は俄かに物凄い気色に変わり、駆け去つて行きます。一方、この女を離別した男は夢見が悪い事を心配し、陰陽師阿倍清明に相談します。清明は女の嫉妬の心が強く、男の命も今夜限りとなつていけると告げ、夫婦の形代を作つて女を待ち受けます。神託の通り嫉妬の心で鬼となつた女は男の元へ向うが、清明の勧請した神々に妨げられ、またの機会を待つといつて去つて行きます。

紅葉狩	木谷 哲也
玉葛	内藤 飛能
小督	亀井 雄二

平成三十年十一月十七日(土) 正午(土) 始



◎入場料 一般 / 5,000円  
学生 / 2,500円

◎会場 宝生能楽堂

JR水道橋駅東口 徒歩3分  
都営地下鉄三田線 水道橋駅  
A1出口 徒歩1分

☎113-0033  
東京都文京区本郷1-5-9